

# 創立60周年を迎えて

越谷市野球連盟  
会長 深井 武久

越谷市野球連盟が創立60周年の節目を迎えられ、ここに記念誌を発刊できますことは、このうえない喜びであります。

永きにわたりご支援いただきて参りました関係各位の皆様方の賜ものと厚く感謝申し上げます。

十年一昔と良く言われますが、正しくその様に感じ、大きな節目としての50周年がつい最近挙行されたかのように思われます。

顧みますと当連盟が昭和30年4月町村合併記念野球大会を13チームの参加により開催されたことが起源に野球協会が設立、そして昭和35年に現在の越谷市野球連盟へと改称されたものと聞き及んでおります。

私が、野球連盟の一員として加盟したのが昭和33年であり、まだ審判部もなく野球場と名の付くようなグラウンドもなく、学校の校庭を利用して大会が行われ、試合中に度々トラブルが発生する事から、昭和36年に審判部も創立され、以後チーム数増加の一途を辿り、球場問題が大きな課題となりました。

昭和42年第22回埼玉国体ではバトミントン会場となり、これを契機にスポーツ機運がより一層高まり、市民球場建設に向け同年9月市議会に請願をいたしましたところ、幸いに請願が採択され、昭和43年には東小林公園球場が開設され数回の改築の後に平成6年現在の市民球場が誕生いたしました。

初代野球連盟会長 山口芳文氏(故人)を始め、鈴木康昭会長、第3代体育協会会長 浅見真哉氏(故人)、そして昭和49年に越谷市スポーツレクリエーション都市宣言が提唱され、スポーツの生涯現役を目標とされたレクリエーション協会会長が 黒田重晴氏、更に長年連盟の理事長として活躍された吉澤喜蔵氏(故人)等多くの方々のご苦勞とご尽力による賜ものとして、現在の野球連盟が育てられ支えられたことを忘れてはならないと今回は遣えて提言させていただきました。

また、野球連盟は所属される多くのチームによって活動される団体であり、先に振れてように当初13チームで創設された連盟が、昭和40年には57チーム、昭和60年には133チームとなり、平成に入ってから4年後には146チームを数え、これをピークに平成7年には138チーム、平成17年には122チーム、平成27年には88チームと減少傾向に辿りつつあります。

この間において、越谷市代表として越谷市役所が昭和55年に天皇賜杯全日本軟式野球大会第3位、昭和57年にも同じく第3位と市役所チームをはじめとして大相模コンドル、蒲生イーグルス等と言った屈指の多くのチームが活躍された組織をここに維持し、連盟の原点である正しい野球の普及と郷土越谷の興隆に微力ながら尽くしていきたいと思っております。今後ともに皆様のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます、記念誌発刊の挨拶といたします。